

長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会

農業最前線

活動組織へ事務や技術を指導

【長野】長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会(赤羽昭彦会長)は、多面的機能支払制度を活用する活動組織を支援するため、事務や技術などの研修会を開催している。

同協議会は、旧長野県農地・水・環境保全部向上対策協議会を母体に、2015年4月に設立された。同年に多面的機能支払制度が法制化され、その手続きや活動内容について広く周知させるため、県内72市町村や804の活動組織を対象に研修会などを開催している。

昨年12月には長野市と松本市の2会場で水路の目地で事故防止と安全管理に係



3月16日に上田市で開かれた法面に小段を設置する技術研修会

法面への小段設置研修会など開催

る技術研修会を実施。3月16日には上田市稲倉棚田で法面に小段を設置する技術研修会を開催した。

法面小段の技術研修会では、急傾斜の草刈りを安全に行うため、丸太材に鉄筋を差し込み斜面に固定する方法で小段を設置した。昨年度も参加した箕輪町の参加者は、「昨年度の工法よりも、丸太や鉄筋の加工などの準備に手間がかかっているが、現場での作業は楽」と語り、安曇野市の参加者は、「地域にある斜面が長いいため、草刈りの作業は重労働で危険。毎年一段ずつ設置したい」と語っていた。同協議会では活動組織の活動を支援するために、来年度以降も事務と技術の研修会の開催を予定している。